

# 自閉症スペクトラム障害の 地域サポート啓発事業

社団法人 日本自閉症協会

〒104-0044 東京都中央区明石町6-22 築地622

## 助成事業の概要

特別支援教育や早期発見早期療育、関連法の整備など発達障害を取り巻く環境の充実が進められている一方で、様々な分野において、発達障害の理解啓発が十分に行われていないことが顕著になっています。さらに、DSM-5（精神障害の診断と統計の手引き第5版）では自閉性障害、アスペルガー障害、広汎性発達障害（PDD）などが「自閉症スペクトラム障害」になり、発達障害を取り巻く環境が大きく変わろうとしています。今回の事業では発達障害に対しての社会資源が不足し、支援体制が未成熟な地方で「自閉症スペクトラム障害」の正しい理解啓発を早急を実施することで、その地域の支援体制の活性化や啓発活動の活発化が進むことを目的としました。

事業内容としては、ライフステージを通じた支援をテーマにした講演会と開催地域の行政との意見交換会を山形県で実施しました。講演会はライフステージを幼児期と学齢期～成人期に分け、2名の講師に講演していただきました。意見交換会では山形県の障害福祉課や保健所の職員の方にご出席いただき、県の啓発活動や事業の今後の展開等について本協会事業企画委員と意見交換しました。3月22日（土）の午前中の意見交換会には19名、午後の講演会には150名の参加がありました。

## 事業の成果

意見交換会は、山形県健康福祉部障害福祉課や

圏域ごとのこども家庭支援課、山形県発達障がい者支援センターの職員の方々と日本自閉症協会の事業企画委員が参加して行われました。県内での自閉症スペクトラムの啓発活動や支援事業について意見交換がなされ、特にペアレントメンターの活動を支援に取り入れるための準備や事業の進め方についての意見が多く出されました。診断直後の親御さんの気持ちに寄り添いながら、子どもの障害を受容することが大変困難なことであることを考慮して、ペアレントメンターによる活動を進めていかなければならないことなども出されました。地域の実情に合わせて、関係機関の連携や、家族会の活動などについて様々な状況と可能性を考慮しながら、活発な意見交換がなされました。事業企画委員による他の地域の情報や専門家としての意見などが、県の今後の事業活動の計画に貴重な役割を果たしました。

講演会では、お2人の講師から、具体例や実例を交えながらライフステージを見据えた支援についてお話いただきました。保護者や療育関係者の参加者が多く、すぐ明日からでも実践できそうな支援例などが講演の中にたくさん盛り込まれていたことが大変役立ったという感想が多くありました。また、学校で支援を考えるにあたって、成人期を考えた自立に向けての支援を考えることの大切さを感じていただいたり、ライフステージを通じた支援というテーマをしっかりと認識していただくこともできました。他県の情報を知ることができたこと、参加費が無料だったことも好評でした。

はじめて講演会に参加される方が多く、その

方々に満足いただける内容になったことが講演後のアンケートからわかりました。今回の講演会が、今後地域の関係機関等による講演会の企画が増えたり、それを見た関係者が参加してみたいと意欲的に思っただけのきっかけづくりを担うことができました。

## ■ 成果の広報、公表

---

今回は集合研修会ということで周知の徹底に力を入れました。山形県自閉症協会の協力のもと、HPへの掲載、県の教育機関や療育施設、関係機関のMLなどを活用させてもらい、県内全域に広く周知できるように徹底しました。

## ■ 今後の展開

---

今回は150名の参加でしたが、今後このような講演会により多くの人たちに参加していただくための、周知のルートの確立や、それぞれの関係機関の情報交換ができる場が充実されることが地域の支援の充実につながると感じました。

今後もこのような事業を継続して行っていくことで、なかなか地域が独自で事業を展開するのが難しいところでも、有意義な意見交換会や講演会の機会を提供することができ、今後の地域活動につなげることができることを認識しました。地域のニーズを丁寧に汲み取り、地域の実情にあった事業を企画することの大切さを実感しました。